

現 状 ・ 課 題

1 患者動向等

- 患者数は県内第1位(H28がん登録者数)、全国でも第15位、西日本第3位とトップクラス(参考1-1)、(参考1-2)
- 子宮頸部がん、子宮体部がんは全国第2位、卵巣がん(境界悪性除く)は全国第4位など、婦人科系のがんは全国屈指の患者数(参考1-3)
- 5大がんは、均てん化が進み、件数自体はそれほど増加していないものの、他施設では治療できなかった「難治性の高いがん」の割合が増加(参考1-4)
- 5大がん以外の治療ができる施設に限られるがん(「希少ながん」)の件数は大きく増加(参考1-4)

2 がん医療を取り巻く環境等

- 遺伝子検査の進歩により、遺伝子変異ごとに効果的な治療を行うなど、臓器別の治療から個別化治療に変化
- 新たな治療法として注目を浴びている免疫療法が普及
- これらの変化に的確に対応するには、常に先進高度な医療を提供できる体制が必要

3 施設

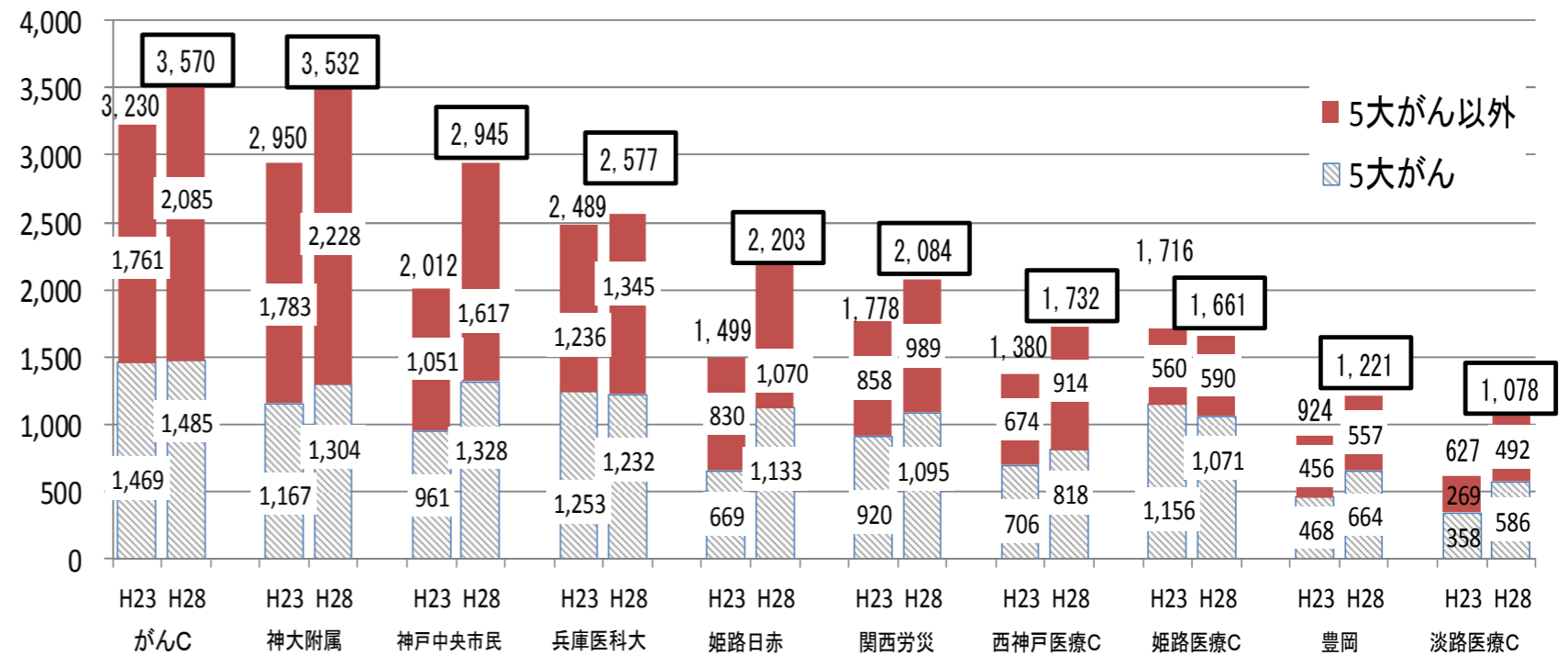
- S59の建物で老朽化とともに狭隘化が進行。建築基準法上の既存不適格建物であることから増改築は困難
- 現代の患者が求める十分な病床スペースやアメニティーが不足
- 旧明石西公園も含めると、敷地面積は約73,600㎡と広大

均てん化が進む中でも、がん医療のリーディングホスピタルとして最先端の高度ながん医療を提供し、難治性の高いがんや希少ながんにも対応できる、がん患者の最後の砦となる専門病院の整備が必要

(参考1-1) H28 全国のがん診療連携拠点病院がん登録者数上位の病院

都道府県	病院名	登録件数	備考
1 東京都	がん研究会有明病院	7,842	
2 東京都	国立がん研究センター中央病院	7,094	
3 静岡県	静岡県立静岡がんセンター	6,289	
4 千葉県	国立がん研究センター東病院	5,511	
5 埼玉県	埼玉医科大学国際医療センター	4,618	
6 東京都	東京都立駒込病院	4,508	
7 神奈川県	神奈川県立がんセンター	4,492	
8 大阪府	大阪国際がんセンター	4,263	西日本1位
9 東京都	順天堂大学医学部附属順天堂医院	4,146	
10 東京都	東京医科大学病院	3,955	
11 福岡県	九州大学病院	3,694	西日本2位
12 東京都	虎の門病院	3,692	
13 東京都	東京大学医学部附属病院	3,633	
14 千葉県	千葉大学医学部附属病院	3,594	
15 兵庫県	兵庫県立がんセンター	3,570	西日本3位
16 岡山県	倉敷中央病院	3,564	
17 愛知県	名古屋大学医学部附属病院	3,533	
18 兵庫県	神戸大学医学部附属病院	3,532	
19 東京都	慶應義塾大学病院	3,496	
20 神奈川県	北里大学病院	3,459	

(参考1-2) H28 県内のがん診療連携拠点病院(国指定)がん登録者数上位の病院



(参考1-3) H28 がん登録者数全国上位の症例

病名	順位	病院名	件数	病名	順位	病院名	件数	病名	順位	病院名	件数
子宮頸部がん	1	がん研究会有明病院	385	子宮体部がん	1	がん研究会有明病院	277	(境界悪性卵巣がん除く)	1	がん研究会有明病院	143
	2	兵庫県立がんセンター	322		2	兵庫県立がんセンター	150		2	東京慈恵会医科大学附属柏病院	99
	3	慶應義塾大学病院	303		3	慶應義塾大学病院	137		3	埼玉医科大学国際医療センター	91
	4	静岡県立静岡がんセンター	243		4	国立がん研究センター中央病院	129		4	兵庫県立がんセンター	85
	5	北海道がんセンター	240		5	埼玉医科大学国際医療センター	129		5	静岡県立静岡がんセンター	75

(参考1-4) 症例区分別院内がん登録者数

	H23					H28					差引				
	診断のみ	自施設診断 自施設治療	他施設診断 自施設治療	他施設初回 治療開始後	計	診断のみ	自施設診断 自施設治療	他施設診断 自施設治療	他施設初回 治療開始後	計	診断のみ	自施設診断 自施設治療	他施設診断 自施設治療	他施設初回 治療開始後	計
5大がん計	30	688	604	147	1,469	76	655	510	244	1,485	46	△ 33	△ 94	97	16
5大がん以外の計	68	864	683	146	1,761	106	1,012	707	260	2,085	38	148	24	114	324
がん合計	98	1,552	1,287	293	3,230	182	1,667	1,217	504	3,570	84	115	△ 70	211	340

新病院の方向性・必要な機能

【目指すべき方向性】

- ・県内のがん診療におけるリーディングホスピタルにふさわしい最先端のがん医療の提供や、がん診療を行う医療機関に対する教育・研修等を実施する
- ・最先端のがん医療を継続的に提供していくため、先進的な治験など臨床研究に特化した研究機能の充実を図る
- ・県立粒子線医療センターや神戸陽子線センター、県立こども病院（小児がん拠点病院として小児やAYA世代のがんに対応）と綿密に連携し、総合的ながん医療の充実を図る
- ・がん医療相談体制の充実をはじめ、仕事を辞めずに続けながら治療を行う仕事と治療の両立支援の強化や学校で実施するがん教育への協力など、社会的支援を積極的に実施する

【必要な機能】

1 診療機能

以下の方向で診療機能の充実を図り、専門医による最先端の医療や高度な集学的治療、多職種によるチーム医療を提供する必要がある。

項目	現状・課題	必要な機能等
(1)がんゲノム医療	H30.3 がんゲノム医療連携病院の指定 H30.4 「ゲノム医療・臨床試験センター」を設置 H30.8 厚労省の先進医療承認 H30.10 「がんゲノム医療外来」を開設	・がんゲノム医療の今後の急速な進展に的確に対応し、がんゲノム医療中核拠点病院と密に連携するとともに、県内の拠点病院として必要な役割を担う ・ゲノム解析を通じ、精度の高い化学療法(抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤)を提供する
(2)手術等	・全国の代表的ながん専門病院の平均を上回る治療成績(5年生存率)を実現(参考2-1) ・鏡視下手術、ロボット支援手術などの低侵襲手術が年々増加(参考2-2) ・老朽化、狭隘化により、今後の最新機器の導入等には限界	・ロボット支援手術等の低侵襲手術を中心に、専門的な外科手術を数多く実施する ・他の施設では対応困難ながんにも的確に対応できる高度な医療を提供する
(3)化学療法	・免疫チェックポイント阻害剤による免疫療法が普及 ・外来移行の流れもあり、外来化学療法センター(40床)は常に満床状態(参考3)	・科学的に効果が証明された免疫療法を積極的に実施する ・更なる高まりが見込まれる外来化学療法に対するニーズに的確に対応する
(4)放射線治療	リニアック(2台)はフル稼働状態(参考4)	・新病院整備時の患者動向等を踏まえ、リニアック等の機器整備を実施する ・粒子線医療センター及び神戸陽子線センターと連携し、粒子線治療に適応がある患者に適切に対応する
(5)支持療法	・ストーマケアやリンパ浮腫セラピー、乳房再建に関する相談等を行う看護外来を開設 ・緩和ケアセンターの設置、緩和ケアチーム(医師、看護師、薬剤師等)によるケアの実施 ・治療の過程で生じた日常生活動作(ADL)障害の回復を支援	・看護外来や緩和ケアの更なる充実を図り、患者の身体的・精神的苦痛の軽減に取り組むとともに、院外も含めた医療関係者への研修等を通じ、支持療法の普及を進める ・早期退院、社会復帰につながるがんリハビリの充実や普及啓発を行う
(6)合併症患者への対応	・がん患者の高齢化に伴い、合併症を併発している患者が増加 ・一部軽微なものを除き、近隣病院と連携して対応	地域医療連携による対応とともに、総合内科の設置等、一定の合併症には院内で対応できる体制が必要である

(参考2-1) I・II期がんの5年生存率

単位:(%)

区分	I期		II期	
	兵庫県立がんセンター	全国がんセンター協議会平均	兵庫県立がんセンター	全国がんセンター協議会平均
胃がん	99.1	97.4	69.3	65.0
大腸がん	98.7	97.6	89.8	90.0
肺がん	83.6	81.8	56.7	48.4
乳がん	100.0	100.0	97.0	96.0
子宮頸がん	93.9	92.3	79.9	77.6

(参考2-2) 低侵襲手術の実施件数(手術室)

区分	H27	H28	H29
年間手術件数①	3,210	3,316	3,332
うち鏡視下手術②	659	764	770
うちロボット支援手術③	57	76	90
(②+③)/①の割合	22.3%	25.3%	25.8%

(参考3) 外来化学療法実施件数の推移

区分	H27	H28	H29
外来化学療法の件数①	10,611	11,434	12,910
うち免疫チェックポイント阻害剤②	326	855	1,595
②/①の割合	3.1%	7.5%	12.4%

(参考4) リニアック対象者数の状況

(単位:人)

区分	H27	H28	H29
がんセンターで治療	744	822	760
リニアック I	392	445	398
リニアック II (IMRT対応)	352	377	362
他院に紹介	159	136	132
計	903	958	892

2 研究機能

(1) 現状

- ・新薬開発から治療に至るあらゆる場面で、患者のゲノム情報に応じた対応が必要になるなど、がん医療は急速に変化・進展
- ・がんセンターでは、バイオバンクやがんゲノム医療の実施により、豊富で質の高い臨床検体やゲノム情報を蓄積
- ・蓄積したゲノム情報の活用等、更なるがん医療の変化・進展への対応には、現在の研究体制では不十分(参考5)

(2) 必要な機能等

最先端のがん医療を継続的に提供していくために、先進的な治験など臨床研究に特化した研究機能の充実を図る必要がある

(3) 臨床研究体制の整備方向

限られた資源を効率的・効果的に活用する観点から、以下①②を前提として人員も含めた必要な体制整備を行う。

- ①がんセンター単独ではなく、大学や企業等と連携した研究体制を構築する
- ②外部の研究支援サービス等を積極的に活用して、研究の効率化を図る

(参考5) 研究機能の変遷の内容及び現在の体制

H1.4 成人病臨床研究所開設

人員(正規): 医師4、その他1

研究項目: 悪性新生物、代謝疾患、心循環器疾患、脳循環器疾患に関する研究を実施
予 算: 99,197千円



H14.3 成人病臨床研究所廃止

H14.4~成人病センター(現がんセンター)研究部設置

人員(正規): 医師1(研究部長兼ゲノム医療・臨床試験センター次長兼婦人科部長)

研究項目: がんを中心とした臨床研究に特化

予 算: -(原則として、試薬購入等の実費のみ)

3 社会的支援

がん医療相談体制の充実やがん患者に対する両立・就労支援など社会的支援の充実を図る。

項目	現状・課題	必要な機能等
(1) 相談体制	がん相談支援センターの相談件数は年々増加。(参考6) 中でも家族同士の交流や、がん患者との対話を求める意見が増加	患者や家族が交流できるスペースの確保やピア・サポーターの活動を促進する
(2) 両立・就労支援	・両立支援コーディネーターの資格を有する看護師が、仕事と治療の両立を支援 ・ハローワークと連携して患者の就労を支援(参考7)	相談体制の充実など、新たな両立・就労支援方策の検討を行う
(3) 教育・研修	他の医療機関や県民に対し、がんに対する情報提供・普及啓発を実施	最新がん医療に関する情報提供等に加え、学校への講師派遣など、教育機関が行うがん知識習得に向けた取組への協力等も行う

(参考6) がん相談支援センター相談件数

区分	H27	H28	H29
相談件数	2,627	2,754	3,029

(参考7) ハローワークと連携した就労相談・就職件数

区分	H27	H28	H29
相談件数	126	148	273
うち求職件数 ①	34	42	79
うち就職件数 ②	15	24	31
②/①	44.1%	57.1%	39.2%

整備方針・病床数・整備場所

【整備方針】

県内がん医療のリーディングホスピタルにふさわしい、他の医療機関のさきがけとなるようなAIやICTの積極的な活用など、最先端のがん医療への対応を図るとともに、患者ニーズに即した病床スペースの確保やアメニティの充実など、患者本位の病院とする

【病床数】

以下の点を考慮し、基本計画で定める。

- ・今後の患者動向
- ・新病院の診療機能
- ・新病院の平均在院日数(見込み)の動向 等

【整備場所】

以下の点を踏まえると、現地建替が望ましい。

- (1) 現在地でがんセンターを中心とする円滑な地域医療連携体制が構築されていること
- (2) 豊富ながん治療実績を持つ病院の中間地域にあること(参考8)
- (3) 現敷地で一定の整備面積が確保できること
- (4) 「がんセンター＝明石市所在」が県民意識に浸透していること

(参考8) H28 がん登録者数1,500件以上のがん診療連携拠点病院(県指定含む)の所在地域

地域	病院名	H28がん登録者数
姫路	姫路赤十字病院	2,203
	姫路医療センター	1,661

地域	病院名	H28がん登録者数
神戸	神戸大学医学部附属病院	3,532
	神戸中央市民病院	2,945
	西神戸医療センター	1,732

地域	病院名	H28がん登録者数
阪神	兵庫医科大学病院	2,577
	関西労災病院	2,084
	兵庫県立尼崎総合医療センター	1,807